様式３

２０１９年度学生支援プロジェクト事業成果報告書

三俣診療班における診療活動の向上を目指して

代表者　　大　石　り　か　（医学部医学科４年）

１．目的と概要

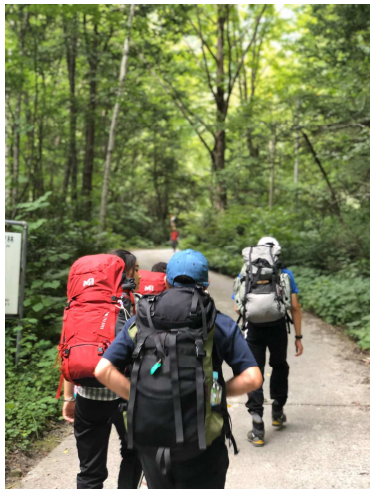
このプロジェクト事業は、北アルプスの三俣山荘に併設された診療所で夏季に行われている診療ボランティアを安全に行うために山中での連絡手段の確保、および装備の充実を目的にしたものです。

２．実施期間（実施日）

令和元年７月２６日から　令和元年８月２４日まで

３．成果の内容及びその分析・評価等

私たち三俣診療班が山荘に併設されている診療所で毎年実施している中で、山での移動時において安全面が十分に確保されていないのではと感じたことが今回のプロジェクト事業のきっかけでした。山に登る上で不測の事態が起こる可能性は否定できません。三俣診療班として登山の練習や登山する際に大事な知識についての勉強会など対策はしてきましたが、遭難した等道中での緊急時に対応できるか不安でした。そのような場面にて連絡手段があるのとないのとでは雲泥の差です。また、診療班の活動の一環である登山道中で負傷した登山客の救助の際にも、救助班と診療所との間で連絡手段があればより安全により適切な処置を行うことができます。上記のことから、山での使用が可能なデジタル簡易無線機の必要性を感じこのプロジェクト事業を持ち上げました。実際にデジタル簡易無線機を診療活動の期間中に使用した結果、登山時の安全面の向上を実感した部員がほとんどでした。また、診療所の医師との連絡が可能となることで道中の患者に迅速な対応ができました。一方で、機能を十分に使いこなせなかったと感じる部員もいたため、来年度はデジタル簡易無線機の使用を練習する機会を増やす必要性を感じました。



もう一つの診療班の課題として、女性部員の増加に伴う備品の不足がありました。登山時の装備には個人で揃えるには負担が大きいものが多く、装備が買えないため参加できないという事態を危惧しました。従って、今回のプロジェクトにて装備の中でも重要なザックおよび雨具の購入し貸し出し用の備品とすることで女性部員が積極的に参加できるような環境を整えることができました。

４．この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、山での連絡手段が確保されたことで部

員の登山道中および救助活動最中の安全面の向上が実現しました。今年度の初めに他大学の登山部での事故により三俣診療班の登山での安全面の見直しが議題に上がり、安全が十分に確保されなければ活動は自粛すべきだとの意見もありました。しかし、診療班としての活動を継続していきたいという意見も多く、今年度は練習登山や勉強会の充実化に力を入れ、さらにはこのプロジェクト事業により登山時の安全面の向上を実現することで今年度の診療活動を行うことにしました。結果として、ヘリ搬送１人を含めた128 人もの登山客の方が診療所にて何かしらの処置を受けられました。私たちの活動がなくなってしまっても山荘の方が何とかするかもしれませんが、それでも活動を継続したことで一番良い形で登山客の方を診療所から見送れたと思います。

５．自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

三俣診療班の活動は、学生が積極的に診療所の補助を行い、医療への好奇心を養い、その環境下での役割の重要性とやりがいを肌で感じることのできる貴重な機会となっています。実際の現場で患者さんを相手に責任のある役割を担い感謝される機会は学生のうちには得ることが難しい経験であり、診療所での活動を通して部員の将来の医療従事者としての社会貢献への意識と責任感の向上につながっていると思います。その機会をなくさないためにも、登山客の安全のみを意識するのではなく活動の前提としての三俣診療班の部員の安全面について考え直す 1 年間でした。山の上という特殊な環境での活動は普段の生活では想定しない出来事や状況に出会いやすく、対策を怠れば命にかかわることについては以前からも当然考えてはきましたが、今年度の活動を通してより安全面を意識した活動を行う地盤を作ることができ、有意義な活動だったと考えています。

（練習登山にて石鎚山を登った様子）

６．反省点・今後の展望（計画）・感想等

診療所で活動を行う班員同士で三俣診療所に向かう前に一度交流会を行うべきだと考えられます。登山を複数人で行う際には、リーダーとサブリーダーを決めその二人が登山時のルートの選択や歩く速さなどを調整します。しかし、班員同士の信頼関係が十分になければ意思疎通が十分に行われずに登山道中にて問題が起こることがあります。実際に、意思疎通が十分に行われず班員同士の距離が開いた状態で登山を行ってしまったという報告がありました。これは安全な状況とは言えず一歩間違えれば事故につながる可能性もあったため、今後このような事態がないようにするためには信頼関係の構築、意思疎通のしやすい環境を作るために班員同士の顔合わせを行った置く必要性を感じました。

また、来年度からは 1 年生は練習登山のみ行い 2 年生から三俣診療班として山荘の活動に参加する方針を考えています。1 年生は 4 月に入学し 7 月に山荘へと登山することとなるので準備期間が 3 か月しかありません。これまでは登山経験が豊富な上級生の存在により問題なく参加してきましたが、近年の三俣診療班では登山経験の豊富な上級生の数が少なくなってきており準備が万全とは言えない 1 年生を登らせてしまうことに不安があります。従って、来年度からは診療活動への参加を 2 年生からにすることを検討しています。

以上のように、安全面への対策を練ってきた今年度の活動を通してもまだ問題点はいくつか指摘されました。完璧に安全な活動は不可能ですが、予測されうる危険な状況を可能な限り避けられるように今後も活動を通して対策を改善していきたいと考えています。

７．実施メンバー

代表者　大石　りか（医学部４年）

構成員　八木　宏樹（医学部４年）　伊藤　翔吾（医学部４年）

舟木　大地（医学部４年）　宮川　友結（医学部３年）

鶴田　志織（医学部３年）　天満　翔一朗（医学部３年）

８．執行経費内訳書

配　分　予　算　額		１９５，０００円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備　考
トランシーバー	２	３２，９４０	６５，８８０	
貸出用雨具	４	１３，９２７	５５，７２８	
貸出用ザック	４	１８，２２５	７２，９００	
合　　計			１９４，５０８	